

## 産学官連携による研究成果の社会還元への取り組み



独立行政法人 森林総合研究所

理事長 鈴木和夫

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質によって周辺地域の森林が広範囲に汚染され、森林や木材、きのこ等への影響が全国的に懸念されました。とくに福島県の山間部は農村と山林が隣接する里山の景観をなしており、隣接する森林からの放射線影響や山地からの放射性物質の流出が懸念され、森林や木材等の安全性の確認が欠かせない状況が続いています。森林総合研究所では国民の安全・安心の確保に貢献する観点から、これまでの研究分野を超えて汚染状況の把握、木材の安全性、きのこへの影響、除染対策等について取り組み、放射能汚染の影響解明と対策について検討してまいりました。そして事故から2年以上が経過し、森林や木材、きのこなどに含まれる放射性物質の挙動が次第に明らかにされてきました。その他、スギ花粉による放射性物質の飛散の推定などについても検討してまいりました。その結果、生活圏に隣接する20m四方の除染が効果的に空間線量率を下げ、良好な生活環境を確保する効果があるなどの知見が国の除染ガイドラインに活用されました。

福島県では、地元を舞台とした2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」に因み、八重桜を新たな復興のシンボルとしています。そこで、多摩森林科学園（八王子市）では、育成していた新しい八重桜の品種を福島県に寄贈し、この八重桜が「八重の桜」主演女優の綾瀬はるかさんによって「はるか」と命名されました。多摩森林科学園では、「はるか」の原木を園内の「森の科学館」の前に植栽し、皆様にご覧いただくことにより、「はるか」が福島の復興を応援する事業に役立てられることを期待しています。

ちなみに多摩森林科学園のサクラ保存林は、我が国最大のサクラの遺伝資源保存林で、伝統

的な栽培品種や各地の名木などの接ぎ木クローンが収集され、約600系統、1,500本が植えられており、3月から4月下旬までの間はさまざまな種類の桜の花を楽しむことができます。

さて、森林総合研究所は、平成23年4月から第3期中期計画を基に業務を行ってまいりました。研究の取り組みとしては、森林・林業再生の実現を目指した研究開発を中心とした課題に取り組んでおり、国産材の利用拡大に向けた低コスト林業や、木材の乾燥や加工による木材の性能向上など、川上から川下に至る一体的な技術開発を進めています。そして、それらの研究成果の社会還元を目指して、本所の産学官連携推進調整室および各支所に配置した産学官連携推進調整監を中心に産学官の連携を図り、技術開発の成果を地域産業の活性化に繋がるように、全所的に成果の見える化に努めております。

国家的戦略である「森林・林業の再生」では、2020年までに木材自給率50%以上を達成すべき目標として掲げられています。今こそ産学官の連携の推進により、持続可能な森林資源の活用という社会が豊かになる森林・林業イノベーションに資する研究開発を進めて、環境負荷を減らし環境保全に貢献することに努めてまいりたいと思います。

この報告書は、研究所として平成24年度に取り組んできた、周辺環境への配慮と省エネルギー、化学物質の適正管理や廃棄物の削減、紙の再利用や古紙の回収などの取り組みについて、「環境報告書2013」としてとりまとめたものです。皆様には本報告書をご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

今後とも、環境負荷の低減、環境の保全に十分配慮しながら研究活動を推進してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。